

# 戦前(明治～大正)の看護教科書

日本における看護婦養成所の設立は、明治17年から始まり、養成教育に必要な書物が次々と出版された。鶴沢氏らによると、明治期出版の看護書は、1877(明治10)年の太田雄寧による『看護心得』を皮切りに、47冊の発行が確認されている。当時の書籍は『近代日本看護名著集成』に一部が覆刻掲載されている。

本会では、日本で初めて看護婦教育が開始された有志共立東京病院看護婦教育所で初期の看護教育に用いられたとされる『A hand - book of nursing for family and general use(1880年)』の1901年版や、日本赤十字社の初期の教科書『日本赤十字社看護学教程』1896(明治29)年の原本など、大変貴重な戦前の看護教科書も所有しており、図書館特別資料室(日本看護協会看護研修学校内併設：東京都清瀬市)にて所蔵展示している。

## 展示資料

[平野鏡『看病の心得』1896(明治29)年：復刻版 解説 坪井良子、大空社1995年。]  
東京慈恵医院看護婦教育所七回生である平野氏が著した、日本で最初の看護婦自らの手による書。

[大関和『實地看護法 5版』1926(大正15)年：復刻版 医学書院1974年。]  
桜井女学校付属看護婦養成所一期生である大関氏が『派出看護婦心得』に続き本書を執筆。

## <参考：日本の看護教育創成期に設立された養成所一覧>

1884(明治17)年	有志共立東京病院看護婦教育所(東京慈恵医院看護婦教育所)
1886(明治19)年	京都看病婦学校、桜井女学校付属看護婦養成所
1887(明治20)年	東京帝国大学医科大学付属看護婦講習科
1890(明治23)年	日本赤十字社救護看護婦養成所

## 引用・参考

- 1) 鶴沢陽子, 花島具子: 看護書からみた近代看護教育; 明治10年"看護心得"から第2次世界大戦終了まで. 看護教育, 23(9) p544-554, 1982.
- 2) 坪井良子編『近代日本看護名著集成』大空社, 1988~1989.
- 3) 坪井良子, 平尾真智子: わが国初期の看護教育と『ハンドブック・オブ・ナーシング』. 総合看護, 20(4) p115-129, 1985.
- 4) 吉川龍子: 赤十字看護教育における初期の教科書. 看護と情報, 9 p92-95, 2002.

